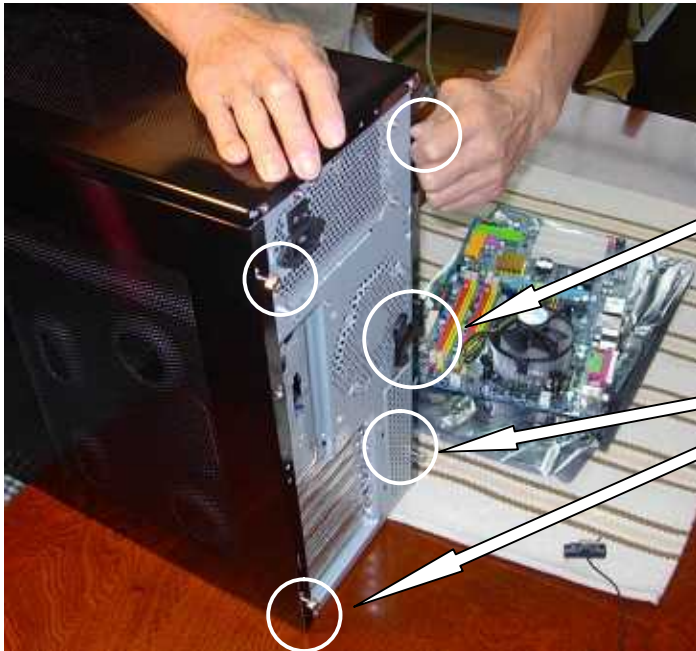


パソコンケースにマザーボードを取り付け

ケースのカバーをはずします。



このケースは後ろの4本のねじをはずすと側面カバーがはずせます。

ねじをはずすと、後ろから見て右側面のカバー（ファンが付いています）は取手があるので引くとはずすことができます。

側面カバー取手
側面カバー固定ねじ4箇所（上2、下2）

左側面のカバーは後ろ方向へ少し引くとはずせます。

ケースを横にします。

ケースの脚を4箇所取り付けます。差し込むだけで固定されます。（写真右）

ケースの中にねじ類（ねじ、スペーサー、ケースの脚、スピーカー）の袋が入っているので取り出して下さい。ねじはミリ（ISO）ねじ、インチねじの2種類が入っています。

ねじの山の間隔が狭いほうがミリねじ、広いほうはインチねじです。



直接マザーボードとケースが接触しないようにスペーサーをケースに取り付けて、その上にマザーボードを付けます。

今回のケースには6か所のスペーサーを取り付けます。



取り付けたスペーサー6箇所

電源ケーブルは作業をし易くするためにケースの外へ出す

このマザーボードには7か所のスペーサを取り付ける場所がありますが、マザーボードの穴と一致しているのはそのうち6か所です。穴の数はマザーボードにより異なります。

マザーボードとケースが短絡して予期せぬトラブルを避けるためスペーサはマザーボードの穴と一致する箇所だけ取付けます。

このマザーボードは ATX 仕様です。別に MicroATX 仕様や FlexATX 仕様などのマザーボードもありますが、大きさもねじの位置も異なります。通常自作機ではケースはミドルタワー、マザーボードは ATX 仕様を使います。

ケーブルはマザーボードの取り付けに邪魔にならないようにケースの外へ出します。ケーブルは電源からは取り外せません。

スペーサーをケースのねじ穴6か所に取り付けます。

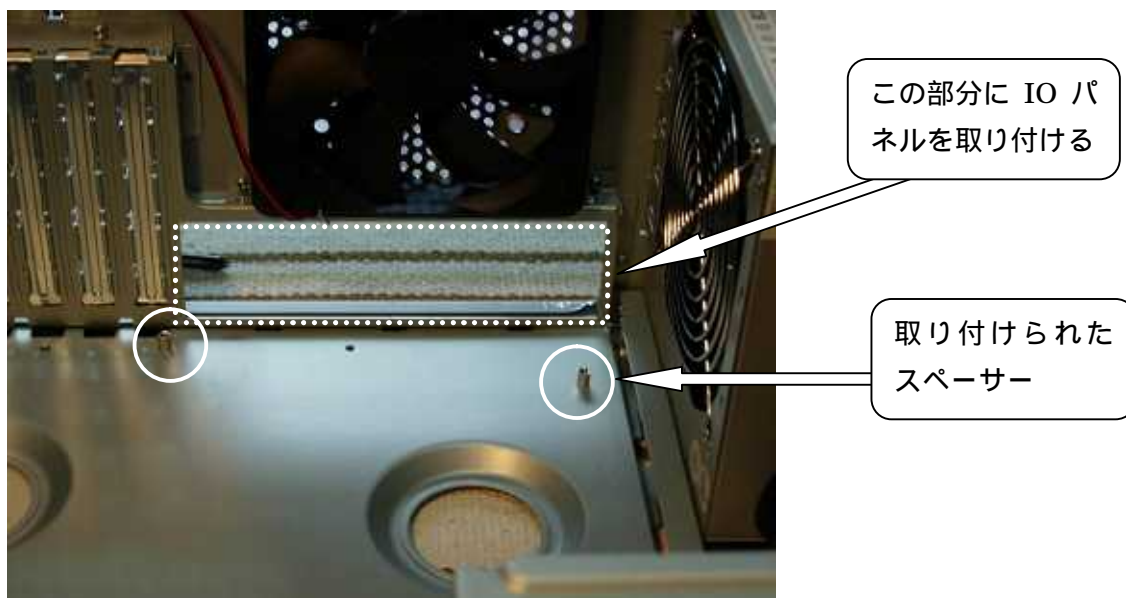
ねじのつけ方は、まず手で入れてみて回します。最初からドライバーで押し込むと、間違ったねじを差し込んだ場合にねじ穴を壊すことがあるので注意しましょう。

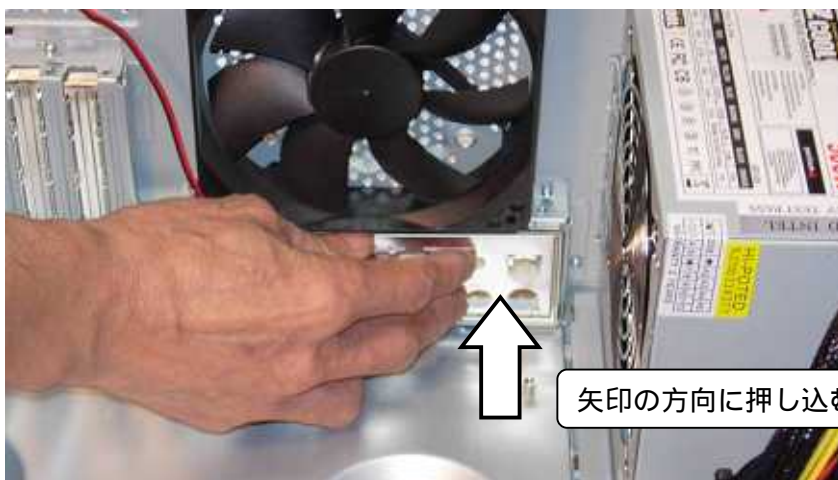
手でまわらなくなったらナット回しで締めつけます。ナット回しが無ければプライヤー（ペンチ）でもできます。

次にマザーボードに付属していた IO パネルを取り付けます。最初からケースについていた IO パネルは不要なのではずします。ケースの外側から内側に向けてパネルを押し込むと外れます。軽く叩くように押しと良いでしょう。

マザーボード付属のパネルをケースの内側から外へ押すようにして取り付けます。

コネクタの説明が記してあるほうが外側になります。

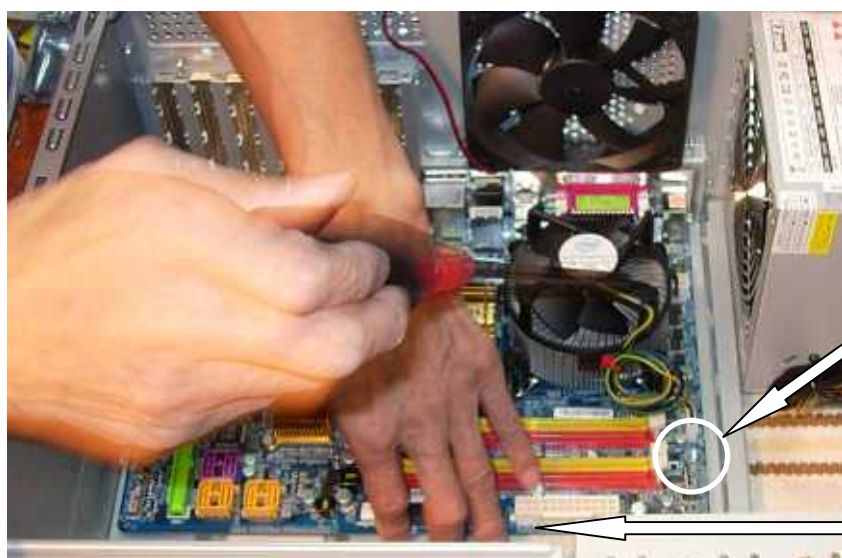




ケースによっては金属の縁にバリが出ているものがあり、怪我をしないように注意しましょう。手袋を使うのが良いかもしれません。

スペーサーの上にマザーボードを置きます。IO パネルにはコネクタに向かってスプリング状のものが内側に押すようになっていまして、スペーサーの上に置いたら IO パネルに向かって少し押しとマザーボード取り付けのねじ穴が見えます。マザーボードの下にケーブルを挟まないように注意します。

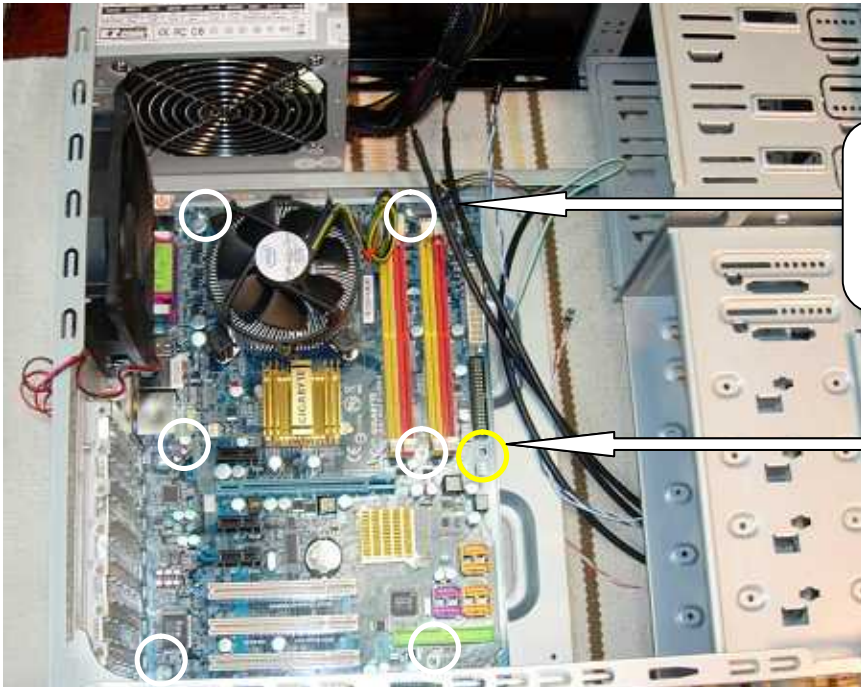
マザーボード取り付けねじ（ミリねじ）は、手では取り付けられないのでマグネット付きドライバーを使うと良いでしょう。このときねじをマザーボードの配線部分に落して傷を付けないように注意します。



ねじ穴

左手でマザーボードを IO パネル方向へ押しながら右手のドライバーでねじを取り付けようとしています。

6か所のねじをゆるく取り付けてからねじを対角線の順に締めていきます。



白色の円内のねじはマザーボード取り付けねじ。
6箇所

黄色の円内のねじ穴はケースに穴が無いのでとりつけていません。